ロシア語の原因を表す前置詞についてⅡ

（コントロールされる動作の観点からの分析）

青　木　正　博

要　旨

本稿では，ロシア語の６つの原因を表す前置詞 из, с, по, от, из-за, благодаря をコントロールされる動作の観点から分析した。ロシア語のいろいろな作品から集めた資料を検討した結果，前置詞 из の場合にコントロールされる動作が表されている例が多く，他の前置詞の場合，とくに前置詞 от の場合，はコントロールされない動作が表されている例が多いことが分かった。資料を検討した結果と従来の説との違いも見られた。たとえば，前置詞 из の場合，従来の説ではコントロールされる動作が表されるとされていたが，資料の中にはコントロールされない動作が表されている例が見つかった。

６つの前置詞が使われている例すべてを集めて分析した結果，コントロールされる動作が表されるか，コントロールされない動作が表されるかに影響を与える５つの文法的，意味的特徴が見つかった。そして，これらの特徴が，前置詞 из の場合にコントロールされる動作が表されている例が多いこと，前置詞 от の場合にコントロールされない動作が表されている例が多いことに影響を与えていることが分かった。また，主語が不活動体を指示している場合はコントロールされない動作が表されるという特徴が現れた例は，６つの前置詞すべてで見られた。

キーワード：原因，前置詞，ロシア語，意味特徴，コントロールされる動作

5.「コントロールされる動作」の観点からの分析

§1．はじめに

本稿では，ロシア語の原因を表す前置詞が使われた場合に，コントロールされる動作が表されるか，コントロールされない動作が表されるかという観点からロシア語の６つの原因を表す前置詞 из, с, по, от, из-за, благодаря の分析を行う。ところで，Иорданская и Мельчук（1996）は，ロシア語の原因を表す前置詞の分析をコントロールされる動作（контролируемое действие）とコントロールされない動作（неконтролируемое действие）の観点から分析を行っている。また，ロシア語の原因を表す前置詞の分析を，Всеволодова и Ященко（2015）は意識的動作（осознанное действие）と意図的でない動作（ненамеренное действие）の観点から，Метс（1985）は随意的動作（произвольное действие）と不随意的動作（непроизвольное действие）の観点から行っている。さらに，Иорданская и Мельчук（1996: 168）は，コントロールされる動作は意志の参加（участие воли）を前提としていると述べている。このように，同様な動作に対してコントロールされる動作，意識的動作，意図的動作，随意的動作，意志的動作などの用語が使われているが，これらの用語の違いについては明らかにされているわけではない。

また，具体的な文においてある動作がコントロールされる動作かどうかは，Иорданская и Мельчук（1996: 184）や Всеволодова и Ященко（2015: 28）が指摘しているように，動詞が表す動作そのものではなく，動作が行われる状況によって決まる。Иорданская и Мельчук（1996: 184）は，以下の（11）の例に関して「‘спать’ が本質的にコントロールされない状態であることは正しいが，しかしながら，（11）においては動詞 СПАТЬ は他の意味で使われている：‘どこかで寝る／眠るための場所を選ぶ’。このことはコントロールされる動作に合致している」と述べている。

（11）*Жиров из страха перед Мамонтом спал в ванной.* [А.Толстой]

“ジローフはマーモントに対する恐怖から浴室で眠っていた”

ところで，コントロールされる動作かどうかを判断するには文脈が必要であるので，本稿では作品の資料を分析することにする[1)]。

§2. 前置詞 из

この節では，原因を表す前置詞 из が使われた場合に，コントロールされる動作が表されるかどうかについて検討する。この点に関しては，Иорданская и Мельчук（1996: 183）は原因を表す前置詞 из について「X はコントロールされる動作 P(X) を行う」と述べている。さらに，「成分‘コントロールされる［動作 P(X)］’の必要性は，X に起こること，X の自然発生的反応（спонтанная реакция）などを示している P に際して，前置詞 ИЗ を使うことができないことによって証明される：

（9）*Он упал <все позабыл, задрожал> *из страха* [= *от страха*].

“彼は恐怖から倒れた〈すべてを忘れた，震え始めた〉”

比較せよ：

（10）a. *Петр переехал сюда из страха перед мафией.*

“ピョートルはマフィアへの恐怖からここへ引っ越した”

対

*б. Петр оказался здесь *из страха перед мафией.*

“ピョートルはマフィアへの恐怖から（気がつくと）ここにいた”」（184 ページ）

と書いている。

さらに，Gitin（1987: 129）は「原因を表す前置詞 iz を選ぶ動詞の最後の特性を我々は［+ コントロールできる（+controllable）］と呼ぶ」と述べている。また，Метс（1985: 256）は「随意的動作遂行のための刺激としての原因は，前置詞 из を伴う生格の名詞の構文によって表される」，城田・八島（2014: 244）は前置詞 из は「意図的ないし意識的行為に駆りたてた内的要因（①感情・気持，②性向・特質，③主義・主張）を示す」のが基本である，阿部（1975: 56）は「前置詞 из は積極的，意識的な動作を喚起する内部的な原因を意味する」と述べている。

作品の資料を見てみると，ほとんどの例でコントロールされる動作が表されていた。

1）Пропустите из уважения к старухе-матери!.. (Дов.)

“年老いた母を敬う気持があるなら通してください！‥”

2）[жители]...не сообщались друг с другом из боязни доносов. (Док.)

“［住民は］…密告を恐れてお互いに付き合わなかった”

3）Из бережной тактичности он не отговаривал Мишу от его странных планов. (Док.)

“思いやりのある機転から，彼はミーシャに彼の奇妙な計画を思い止まらせようとしなかった”

4）Я раза три вообще не голосовал. Причем не из диссидентских соображений. Скорее — из ненависти к бессмысленным действиям. (Дов.)

“私はそもそも 3 回ほど投票しなかった。もっとも反体制的考えからではない。むしろ，無意味な行動に対する憎しみからである”

5）Лестница опустела. Из осторожности подождали еще немного. (Мас.)

“階段は空になった。用心深さから（彼女らは）もうしばらく待った”

1）から 5）の例ではそれぞれ，“敬う気持があるなら通してください”，“密告を恐れてお互いに付き合わなかった”，“思いやりのある機転から思い止まらせようとしなかった”，“憎しみから投票しなかった”，“用心深さからもうしばらく待った”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。

しかしながら，作品の資料を見てみると，コントロールされない動作が表されている例も見つかった。

以下の例 6）では，動詞 остеречься“避ける”はコントロールされる動作を表しているが，副詞 бессознательно“無意識のうちに”がつくことによって，“恐怖だけから無意識のうちに避ける”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。

6）Из одного страха перед тем, какое унизительное, уничтожающее наказание нелюбовь, я бессознательно остереглась бы понять, что не люблю тебя. (Док.)

“愛してないことが，なんと屈辱的で，破壊的な罰であるかという恐怖だけから，私はあなたを愛していないことを悟ることを無意識のうちに避けることでしょう”

また，以下の例 7）では，“放心していたかららしく，よく見もしないで，不注意で惚れ込んでしまった”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。

7）[Дудоров]...якобы из рассеянности, проистекавшей от мелькания многочисленных военных кругом и от пережитков своего солдатского козыряния, недоглядел, влюбился по недосмотру и второпях сделал младшей сестре предложение. (Док.)

“［ドゥードロフは］…あたりに多くの軍人がちらちら見えていて，自分の兵隊時代の挙手の敬礼の癖が残っていたため放心していたかららしく，よく見もしないで，不注意で惚れ込んでしまい，大急ぎで妹の方に結婚を申し込んだ”

次の例 8）の 2 番目の文では，不活動体の солнце“太陽”を指示する代名詞 оно“それ”が主語であり，продолжало закатываться“沈み続けた”という動作はコントロールされていない。

8）На станцию возвращались вечерами, когда садилось солнце. Как бы из верности прошлому, оно продолжало закатываться на прежнем месте... (Док.)

“駅に帰ってくるのは太陽が沈もうとしている夕方のことだった。あたかも過去への忠誠からのように，それ［太陽］はいつもと同じ場所に沈み続けた…”

さらに次の例 9）の後半の文では，形容詞を伴った不活動体名詞の неслышная и легкая печаль“聞こえない，軽い悲しみ”が主語であり，нашла“襲った”という動作はコントロールされていない。

9）Старуха опять осталась одна, и исподволь, из ничего на нее нашла неслышная и легкая печаль... (Пос.)

“老婆は再び一人になった。すると少しずつ，何とはなしに彼女を聞こえない，軽い悲しみが襲った…”

したがって，作品の資料では，原因を表す前置詞 из の場合，コントロールされる動作が表されている例が多いが，コントロールされない動作が表されている例もあることが分かる。原因を表す前置詞 из の場合に主語が不活動体を指示している例は 8）と 9）の例だけであるが，2 例ともコントロールされない動作が表されていた。以上のことから，Иорданская и Мельчук（1996）が原因を表す前置詞 из の場合「X はコントロールされる動作 P(X) を行う」と述べていることには反例があると言える。

§3. 前置詞 с

原因を表す前置詞 с の場合にコントロールされる動作が表されているかどうかに関しては，Агафонова（2000: 327–328）は，前置詞 с に続く要素 Y が心理的状態を表す場合の述部の意味的内容は次の 3 つのタイプがあり得るとして，コントロールされる動作の点からの分析を行っている。

а）心理的状態 Y の（生理学的性質の）コントロールできない結果：*седеть*“白髪になる”，*постареть*“老ける”，*заснуть*“眠り込む”，*заболеть*“病気になる”，*плакать*“泣く”；

（43）Целый день плакал мальчик. И ночью *с горя заснул* как убитый (Шварц);

“一日中男の子は泣いていた。そして夜に悲しみからぐっすり眠り込んだ”

б）コントロールの部分的喪失と結びついた多かれ少なかれ意識された，しかし《標準的でない》，《突然の》動作：

（45）У нее оставалось очень мало денег; *с горя*, как в хороших фильмах, она *пошла шляться* по танцевальным кафе

“彼女にはほんのわずかのお金しか残っていなかったが，悲しみから，素晴らしい映画に

おけるように，彼女はダンス・カフェをぶらつきに出かけた”

в）心理的状態 Y を排除することを目的とする意識された動作（もっとも稀な場合）：

（48）*Выпьем с горя.* Где же кружка? Сердцу будет веселей (Пушкин)

“悲しいから飲もう。ジョッキはどこにあるのか？心は楽しくなるだろう”

また Агафонова（2000: 328）は，前置詞 с に続く要素 Y が肉体的状態を表す場合は，以下のような，心理的状態の場合と似た状態 Y の 3 つの意味的タイプを分けることができるとしている[2)]。

а）Y は主体の意志に関係しない状態を引き起こす；

б）Y はコントロールの部分的な喪失を引き起こす；

в）Y はその克服へ向けられた動作を引き起こす。

ところで，作品の資料の例を見てみると，コントロールされない動作が表されている例が多かった。

1）И тронулся. С перепугу. (Вам.)

“とうとう気が変になってしまった。恐ろしさのあまり”

2）Мать Кольки лежала в постели — захворала с горя. (Шук.)

“コーリカの母は床に就いていた。悲しみで病みついたのである”

3）Левая нога не шагала. Нисколько. Даже на полшажка.

— Ну ничего... Паразитка. С непривычки... (Шук.)

“左足は歩こうとしなかった。少しも。半歩さえも。

「まあいいさ… こん畜生め。慣れてないせいだ…”

1）と 2）の例では，それぞれ“恐ろしさのあまり気が変になってしまった”，“悲しみで病みついた”ということが示され，Агафонова（2000）の言う「心理的状態 Y のコントロールできない結果」が表されている。3）の例では，義足の左足が歩こうとしないのをコーリカは慣れてないせいにしている。Агафонова（2000）の言う，肉体的状態「Y は主体の意志に関係しない状態を引き起こす」に当てはまる。また，この例では，形容詞を伴った不活動体名詞 левая нога“左足”が主語となっている。

Агафонова（2000）が，Y が心理的状態を表す場合に関して言う「б）コントロールの部分的喪失と結びついた多かれ少なかれ意識された，しかし《標準的でない》，《突然の》動作」に当たる例も，作品の資料に見られた。

4）Сами со страху разбежались... (Док.)

“自分たちから恐怖で方々へ逃げ出した…”

5）Андрей встал, пнул со зла табуретку. (Шук.)

“アンドレイは立ち上がって，腹立ちまぎれに腰掛を蹴飛ばした”

4）と 5）の例ではそれぞれ，“自分たちから恐怖で方々へ逃げ出した”，“腹立ちまぎれに腰

掛を蹴飛ばした”ということが示され，コントロールが部分的に失われた突然の動作が表されている。

また，Агафонова（2000）が，Y が心理的状態を表す場合に関して言う「в）心理的状態 Y を排除することを目的とする意識された動作」の例も，作品の資料に見られた。

6）— А все почему пьем? — ...

— Вот говорят, с горя, с того, с другого. Не-ет. (Пос.)

“「ところで，我々みんなは何故飲むのだろうか？」…

「悲しみからだとか，あれからだとか，これからだとか言うけど，違う」”

6）の例では，話者のミハイルは“違う”と否定しているが，“悲しみから飲む”つまり，悲しみを紛らわすために飲むと一般的に言われているのであり，「心理的状態 Y を排除することを目的とする意識された動作」が表されている。なお，この例の場合，コントロールされる動作が表されている。

以上のことから，Агафонова（2000）が「前置詞 с に続く要素 Y が心理的状態を表す場合の述部の意味的内容」を 3 つのタイプに分けて行っている分析が正しいことが確認できる。

§4. 前置詞 по

原因を表す前置詞 по に関しては，本稿で扱っている研究者の著作，論文においては，コントロールされる動作の点からは触れられていないが，意志的・意識的行為の点からは城田・八島（2014）が，意図しない原因，意識されていない動作の点からは阿部（1975）が述べている。

城田・八島（2014: 250）は前置詞 по に関して，

（1）Она́ **по** глу́пости согласи́лась не подава́ть в суд.

おろかだったので訴えを起こさないことに同意してしまった。

のような例を挙げて,「以上のように人の意志的・意識的行為の原因を直接関係する性質・特性から説明するのが基本的な用法」と述べている。また,「無意志的・無意識的行為や状態に関しては用いられない」（251 ページ）と書いている。

阿部（1975: 60）は「前置詞 по は恒常的な資質あるいは一時的な状態等を意味する意図しない原因を表わす」と述べている。また，前置詞 из と前置詞 по の違いについて以下のような例を挙げて，

Он пришел к нам из любопытства.

（彼はわれわれのところへ好奇心にかられてやって来た。）

По рассеянности он взял чужой портфель.

（ぼんやりして彼は他人のカバンを取った。）

「上の文では前置詞 из の方は積極的，意識的動作の原因を意味しているのに対し，前置詞 по の用いられている文では動作の瞬間に意識されていない動作について語られている」（62 ペー

ジ）と書いている。

ところで，コントロールされる動作が表されているかどうかという点から作品の資料を見てみると，コントロールされない動作が表されている例が多かった。

1）Вдруг по неосторожности Сашенька широко и сладко зевнул... (Док.)

“突然油断してサーシェニカは大きく心地よくあくびをした…”

2）Толстяк...восторженно сообщил, что оказался без брюк в данный момент лишь потому, что по рассеянности оставил их на реке Енисее... (Мас.)

“太った男は…今ズボンをはいていないのは，うっかりしてズボンをエニセイ河のほとりに忘れてきたからにすぎないと有頂天になって伝えた…”

3）Она была неизвестно чья и забрела во двор, наверное, по ошибке. (Док.)

“それは誰の馬か分からなかったが，おそらく間違って中庭に迷い込んだのだ”

4）Пассажиры из задних вагонов переходили в передний, по неисправности которого все это происходило... (Док.)

“後ろの車両の乗客たちは，その故障のせいでこれらすべてが起こった一番前の車両に移ってきた…”

5）Что-то напоминает. Не могу вспомнить что. Забывчив по нездоровью. (Док.)

“何かを思い出させる。何だったか思い出せない。体調が悪いせいで忘れっぽくなっている”

1）から5）の例ではそれぞれ，“油断してあくびをした”，“うっかりして忘れてきた”，”間違って迷い込んだ”，“故障のせいで起こった”，“体調が悪いせいで忘れっぽくなっている”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。なお，4）の例の後半の文では，不活動体を指示する все это“これらすべて”が主語となっており，5）の例では，забывчивый“忘れっぽい”というコントロールされない状態を表す形容詞が使われている。

一方，作品の資料では，コントロールされる動作が表わされている例も見られた。

6）Просто, наверно, на него, по его молодости и совестливости, навалили столько дел в совхозе, что он позабыл и улыбаться, и говорить приветливо... (Шук.)

“おそらく，彼が若くて，良心的なので，ソフホーズでたくさんの仕事を彼が押し付けられているために，彼は微笑むことも，愛想良く話すことも忘れてしまったにすぎない…”

7）По случаю воскресенья семья Маркела Щапова была вся в сборе. (Док.)

“日曜日だったので［の機会のせいで］マルケル・シャーポフの家族全員が集まっていた”

6）と7）の例ではそれぞれ，“彼が若くて，良心的なので，人々が彼に仕事を押しつけた”，“日曜日だったので集まっていた”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。なお，6）の例は不定人称文の例である。

上で検討したことから，原因を表す前置詞 по が使われた例では，コントロールされる動作とコントロールされない動作両方が表されていることが分かる。城田・八島（2014: 251）は前

置詞 по に関して,「無意志的・無意識的行為や状態に関しては用いられない」と書いているが，たとえば，2）の例では“うっかりしてズボンを忘れてきた”ということが示され，無意志的・無意識的行為が表されている。また，4）の例では“一番前の車両の故障のせいでこれらすべてのことが起こった”ということが示され，不活動体の все это“これらすべて”が主語であり，意志的・意識的行為は表されていない。一方，阿部（1975: 60）は前置詞 по は「意図しない原因を表わす」と述べているが，たとえば，7）の例では“日曜日だったので集まっていた”ということが示され，意図された動作が表されている。したがって，城田・八島（2014）と阿部（1975）が述べていることは，作品の資料の例が表していることに反すると言える。

§5. 前置詞 от

原因を表す前置詞 от が使われた場合にコントロールされる動作が表されるがどうかについては，Иорданская и Мельчук（1996: 175–176）は,「1）もしも Y が X に対して外的要因であるなら，P はコントロールされる動作ではない；2）もしも Y が X の情緒・反応（эмоция-реакция）ならば，P が Y によってふつう引き起こされるコントロールされる動作のタイプに合致する場合にのみ，P はコントロールされる動作であり得る」と述べている。

上に挙げた条件 1）については，Иорданская и Мельчук（1996: 177）は，以下の（21）a と б の例では холод“寒さ”は X に対して外的要因であるが，a の例は X のコントロールされる動作が表されているので正しくなく，б の例は X のコントロールされない状態が表されているので正しいとしている。

（21）a. *Петр лег одетым *от холода в спальне.*

“ピョートルは寒さのせいで寝室に服を着て横になった”

б. *Петр дрожал от холода в спальне.*

“ピョートルは寒さのせいで寝室で震えていた”

上に挙げた条件 2）に関して Иорданская и Мельчук（1996; 178）は，以下の（22）a の例に関しては,「悔しさ，怒り，恥ずかしさは情緒・反応であるが，家から去るは X の意図されたコントロールされる熟考された動作である，それゆえ，それは，これらの情緒によってふつう引き起こされるような動作の一つでありえない」という理由で不可能であると述べている。

（22）a. *Петр ушел из дома *от обиды <*от гнева, *от стыда>.*

“ピョートルは悔しさ〈怒り，恥ずかしさ〉のあまり家から去った”

一方，以下の г の例は，P(X) が（コントロールされるが）衝動的な動作であるので正しいとしている。

г. *От обиды Петр бросился вон из дома <наговорил нам дерзостей>.*

“悔しさからピョートルは家を飛び出した〈私たちにさんざん無礼なことを言った〉”

Иорданская и Мельчук（1996）の説に従って，作品の資料を見てみると，外的要因が表され

ている例では，1例を除きコントロールされない動作が表されていた。

1）Мастер взволновался от этих слов... (Мас.)

“巨匠はその言葉を聞いて興奮した…”

2）Повешенный на нем Гестас к концу третьего часа казни сошел с ума от мух и солнца... (Мас.)

“それ［刑柱］に吊されたゲスタスは処刑の3時間目の終わり頃に蝿と太陽のせいで気が狂った…”

3）Ночью от неосторожного обращения с огнем загорелся дом, от него — соседние. (Док.)

“夜に火の不始末のせいで家が燃えだし，そこから隣家が燃えだした”

4）Я в детстве близко видела бедность и труд. От этого мое отношение к революции иное, чем у вас. (Док.)

“私は子供のころ貧しさと苦労を身近に見てきた。そのせいで私の革命に対する考え方はあなたとは違うのです”

1）から4）の例ではそれぞれ，“その言葉を聞いて興奮した”，“蝿と太陽のせいで気が狂った”，“火の不始末のせいで燃えだした”，“そのせいで違う”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。4）の例の2番目の文では，述語は形容詞 иное“違っている”であり，コントロールされない状態が表されている。また3）の例では主語 дом“家”が，4）の例では主語 мое отношение“私の考え方”が不活動体を指示している。

外的要因が表されている例で，コントロールされる動作が表されている例は，以下の例である。

5）На койке против Ефрема с самого укола спал этот белорылый курортник. Накрыли его потяжелей от озноба. (Рак.)

“エフレムの向かいのベッドでは，あの青白い顔をした療養者が注射をされてすぐに眠っていた。悪寒がするので彼には少し重めに毛布を掛けていた”

この例の2番目の文は不定人称文で，悪寒がしたのは療養者であり，毛布を掛けた人は別の人である。悪寒はその人にとっては外的要因であり，毛布を掛けることはコントロールされる動作である。

次に，内的要因が表されている例を見てみると，コントロールされない動作が表されている例が多かった。

6）Отец вспотел от горя. (Шук.)

“父は悲しみで汗がにじみ出た”

7）Я похолодел от страха. (Дов.)

“私は恐怖でぞっとした”

8）У доктора от недосыпу ломило голову. (Док.)

“ドクトルは寝不足のために頭が痛んだ”

9）Вода в полоскательнице была слегка розовата от сплюнутой крови. (Док.)

“うがいコップの水は吐いた唾の血でかすかにバラ色がかっていた”

6）から 9）の例ではそれぞれ，“悲しみで汗がにじみ出た”，“恐怖でぞっとした”，“寝不足のために頭が痛んだ”，“吐いた唾の血でバラ色がかっていた”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。なお 8）の例は，動詞 ломить“痛ませる”が無人称動詞として使われている無人称文の例である。9）の例では，述語として形容詞 розоватый“バラ色がかった”が使われており，コントロールされない状態が表されている。

前置詞 от が内的要因を表す場合に，コントロールされる動作が表されている例も見られた。

10）Заведующий заперся у себя в кабинете от сраму. (Мас.)

“支部長は恥ずかしくて自分の部屋に閉じこもった”

11）...и спорит она с Миронихой больше от обиды, почти ревности... (Пос.)

“…だから，彼女がミローニハ婆さんと言い争いをするのは主にくやしさから，ほとんど嫉妬からである…”

12）Люся закричала на Игреньку... и от страха же стала пинать его во впалый бок... (Пос.)

“リューシャはイグレーニカ［馬の名前］を怒鳴りつけた…そして正に恐怖からその痩せこけた脇腹を蹴り始めた…”

13）Дёмкин гость, безголосый дородный мужчина, придерживая гортань от боли, несколько раз пытался вступить, сказать что-то своё... (Рак.)

“ジョームカのお客で声の出ないかっぷくのよい男は，痛いので喉をそっと押さえながら，何回か話に割って入って，何か自分の意見を述べようとした…”

10）から 13）の例ではそれぞれ，“恥ずかしくて自分の部屋に閉じこもった”，“主にくやしさから，ほとんど嫉妬から言い争いをする”，“（馬のイグレーニカが倒れてしまったので）恐怖から蹴り始めた”，“痛いので喉をそっと押さえる”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。

10），11），12）の例では，それぞれ「感情」を表す名詞 срам“恥ずかしさ”，обида“くやしさ”，ревность“嫉妬”，страх“恐怖”が原因を表している。これらの名詞は Иорданская и Мельчук（1996）が言う“情緒・反応”を表す名詞でもあり，彼らは「もしも Y が X の情緒・反応ならば，P が Y によってふつう引き起こされるコントロールされる動作のタイプに合致する場合にのみ，P はコントロールされる動作であり得る」述べている。それぞれの例について見てみると，10）の例では，“恥ずかしくて自分の部屋に閉じこもる”ことはふつう引き起こされる動作である。11）の例で，“主にくやしさから，ほとんど嫉妬から言い争いをする”ことや，12）の例で，“恐怖から馬の脇腹を蹴り始める”ことは，Иорданская и Мельчук（1996）が（22）г の例について言っている衝動的な動作に当てはまると考えられる。13）の例は，「肉体的状態」を表す名詞 боль“痛み”が原因を表している例で，Иорданская и Мельчук（1996）が

言う“情緒・反応”を表す名詞の例ではないが，コントロールされる動作が表されている例である。以上検討したことから，作品の資料では，Иорданская и Мельчук（1996:175–176）が挙げている２つの条件は，5）の１例を除いて正しいと言える。

ところで，原因を表す前置詞 от が使われた場合，作品の資料では，コントロールされない動作が表されている例が非常に多く，コントロールされる動作が表されている例は少なかった。

§6. 前置詞 из-за

原因を表す前置詞 из-за に関しては，本稿で扱っている研究者の著書や論文においてはコントロールされる動作の点からは触れられていないが，Метс（1985: 258）は，前置詞 из-за は「不随意の状態や性質，不随意の動作」を表すさいに使われると述べ，以下のような例を挙げている。

Он упал из-за тебя.“彼は君のせいで倒れた”

Цветы завяли из-за холодов.“花は寒さ続き天気のせいでしおれた”

Он уехал из-за тебя.“彼は君のせいで去った”

作品の資料を見てみると，前置詞 из-за の場合はコントロールされない動作が表されている例が多かった。

1）Из-за них раньше своих годов и состарилась. (Пос.)

“彼ら［子供たち］のせいで，彼女は自分の歳より老け込んだ”

2）Почему, собственно, я так взволновался из-за того, что Берлиоз попал под трамвай? (Мас.)

“本当のところ，なぜ私はベルリオーズが路面電車にひかれたせいであんなに興奮したのだろうか？”

3）Сильно ты из-за курсанта расстроилась? (Вам.)

“君は士官学校の生徒のことでひどくがっかりしたかい？”

4）Я из-за тебя всю ночь вчера тряслась нагая... (Мас.)

“私はあなたのせいで昨日一晩中裸で震えていた…”

5）Прием только в три начался из-за собрания// (Раз.)

“受付は集会のせいで３時になってやっと始まった”

1）から 5）の例ではそれぞれ，“彼らのせいで老け込んだ”，“ベルリーズが路面電車にひかれたせいで興奮した”，“士官学校の生徒のことでがっかりした”，“あなたのせいで震えていた”，“集会のせいで３時になってやっと始まった”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。なお，5）の例では，不活動体名詞の прием“受付”が主語になっている。

一方，コントロールされる動作が表されている例も見られた。

6）Значит, ты отказал ему из-за меня?.. (Вам.)

“つまり，あなたは私のせいで彼を断ったわけ？‥”

7）Я все думал, что женщины наконец поссорятся из-за моего брата. (Дов.)

“私は女たちがついには私の従兄のことで喧嘩をするだろうとずっと思っていた”

8）— Маркиза, — бормотал Коровьев, — отравила отца, двух братьев и двух сестер из-за наследства! (Мас.)

“「あの侯爵夫人は」とコローヴィエフがつぶやいた。「遺産のことで父，二人の兄弟と二人の姉妹を毒殺したのです！」”

9）Ей все говорили, что она похожая на какую-то артистку... Она и в культ прасветшколу из-за этого пошла, она сама говорила. (Шук.)

“彼女にみんなが，彼女はある女優に似ていると言っていた…彼女はそのせいで文化教育学校に入ったと彼女自身が言っていた”

6）から 9）の例ではそれぞれ，“私のせいで断った”，“従兄のことで喧嘩する”，“遺産のことで毒殺した”，“そのせいで文化教育学校に入った”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。

ところで Метс（1985: 258）は，前置詞 из-за は「不随意の状態や性質，不随意の動作」を表すさいに使われると述べているが，たとえば，6）の例の動詞 отказать“断る”，7）の例の動詞 поссориться“喧嘩する”は随意的動作を表しており，これらの例は Метс が言っていることの反例となると考えられる。

§7．前置詞 благодаря

原因を表す前置詞 благодаря に関しては，本稿で扱っている研究者の著作や論文においては，コントロールされる動作を表すかどうかという点からは触れられていなかった[3)]。

作品の資料の例を見てみると，コントロールされない動作が表されている例が多かった。

1）[он]...врезался в память Никанору Ивановичу благодаря своим частым выступлениям по радио. (Мас.)

“[彼は]…ラジオによく出演していたためにニカノール・イワーノヴィチの記憶に焼きついていた”

2）Но благодаря его выкрикам тревога передалась в 120-ю комнату... (Мас.)

“しかしながら，彼の叫び声のせいで，不安が 120 号室に伝染した…”

3）В дороге, благодаря неподвижному сидению в тесном купе, казалось, что идет только поезд. а время стоит и что все еще пока полдень. (Док.)

“道中，狭い車室に動かずに座っているために，汽車だけが動いていて，時間は止まっており，相変わらず真昼が続いているように思われた”

1）から 3）の例ではそれぞれ，“ラジオによく出演していたために記憶に焼きついていた”，

“彼の叫び声のせいで伝染した”,“動かずに座っているために思われた”ということが示されており，コントロールされない動作が表されている。また，2）の例は不活動体名詞 тревога“不安”が主語になっている例であり，3）の例は動詞 казаться“思われる”が無人称動詞として使われている無人称文の例である。

コントロールされる動作が表されている例は，それほど多くはなかった。

4）Собираемся, благодаря Анфиму, снабжающему нас керосином, вокруг лампы. (Док.)

“私たちに灯油を補給してくれるアンフィームのおかげで, 私たちはランプの周りに集まる”

5）И благодаря этим милейшим дамам/ мы потом пошли обедать вместе в “Пекин” (*название ресторана*)/ (Раз.)

“そしてこれらのとても感じのよい婦人たちのおかげで，私たちはそのあと一緒に「ペキン」（レストランの名前）へ昼ご飯を食べに行った”

6）/ там еще познакомился с одним... с одним... И благодаря им же/ я попал на... последний концерт/ (Раз.)

“そこでさらに一人の人と知り合いになった…一人の人と…そして彼らのおかげで私は行くことが出来た… 最後のコンサートに”

4）から 6）の例ではそれぞれ，”アンフィームのおかげで集まる”，“これらのとても感じのよい婦人たちのおかげで昼ご飯を食べに行った”，“彼らのおかげで行くことが出来た”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。

§8. コントロールされる動作の観点からの原因を表す前置詞 из と от の使われ方の違い

本稿で扱っている原因を表す前置詞が使われている作品の資料の例を，コントロールされる動作が表されている例（以下の表 4 のⅠの行），コントロールされない動作が表されている例（表 4 のⅡの行），コントロールされる動作が表されているか，コントロールされない動作が表されているか判断できない例（表 4 のⅢの行）に分けて，前置詞別に示すと表 4 のようになる [4)]。

表 4　原因を表す前置詞とコントロールされる動作の関係

	из		с		по		от		из-за		благодаря		合計	
	例	割合	例	割合	例	割合	例	割合	例	割合	例	割合	例	割合
Ⅰ	20	83%	14	23%	8	25%	44	7%	39	31%	7	32%	132	15%
Ⅱ	4	17%	41	66%	16	50%	574	90%	85	67%	14	64%	734	81%
Ⅲ	0	0%	7	11%	8	25%	20	3%	3	2%	1	5%	39	4%

表4から明らかなことは，前置詞 из の場合にコントロールされる動作が表されている例の割合が特に高く，その他の前置詞の場合にコントロールされない動作が表された例の割合が高いことである。コントロールされない動作が表されている例の割合は，前置詞 от の場合に特に高い。そこで，この節では，コントロールされる動作の観点から，原因を表す前置詞 из と前置詞 от の使われ方の違いを作品の資料の例から見てみる。そのさい，両者の違いがよく現れる，この2つの前置詞が同じ名詞を支配している例を検討してみることにする。

青木（2017: 183）で述べたように，前置詞 из は「人間の性質」,「感情」を表す名詞の場合にもっぱら使われており，作品の資料では両方の前置詞が同じ名詞を支配している例は，名詞が「人間の性質」,「感情」を表している例だけであった。

「人間の性質」を表す名詞で両方の前置詞が使われている例は，作品の資料では名詞 вежливость“礼儀正しさ，丁重さ”の例だけであった。前置詞 из の例が1例，前置詞 от の例が1例あった。

1）Он из вежливости не показал, что присутствие постороннего удивляет его или стесняет. (Док.)
“彼は部外者の存在が彼を驚かしたり，気まずい思いにさせたりしているという素ぶりを礼儀上見せなかった”

2）Но зато и страдал же Иван Савельевич от своей вежливости! (Мас.)
“しかし，その代わりイワン・サヴェーリエヴィチはその丁重さのために苦しんだのだ！”

1）の前置詞 из の例では，”素ぶりを礼儀上見せなかった”ということが示され，コントロールされる動作が表されており，2）の前置詞 от の例では，”その丁重さのために苦しんだ”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。

次に「感情」を表す名詞について見てみる。作品の資料では,「感情」を表す名詞で原因を表す前置詞 из と前置詞 от 両方と使われていた名詞は，любовь“愛”，ревность“やきもち，嫉妬”，жалость“憐れみ，悲しみ”，любопытство“好奇心”，страх“恐怖”であった。

まず，名詞 любовь“愛”について見てみると，前置詞 из の例が1例，前置詞 от の例が1例あった。

3）...а если это будет ей не по силам, то из любви к жизни родить себе преемников, которые это сделают вместо нее. (Док.)
“…そして，もしもそれが自分の力に余ることであれば，生命への愛から，自分に代わってそれを成し遂げてくれる後継ぎの子供たちを生もう”

4）Серега особенно любил походку жены: смотрел, и у него зубы немели от любви. (Шук.)
“セリョーガは特に妻の歩き方が好きだった。それを見ていると彼の歯は愛のせいでしびれた”

3）の前置詞 из の例では，“生命への愛から後継ぎの子供たちを生む”ということが示され，コントロールされる動作が表されており，4）の前置詞 от の例では，“彼の歯は愛のせいでしびれた”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。4）の例の場合，不活

動体名詞の зубы“歯”が主語になっている。

次に名詞 ревность“やきもち，嫉妬”について見てみると，前置詞 из の例が 1 例，前置詞 от の例が 1 例あった。

5）Шаманов. ...в Табарсуке тракторист избил жену.

Кашкина. ...Наверно, из ревности. (Вам.)

“シャマーノフ　… タバルスーク村ではトラクター運転手が妻を散々殴った。

カーシキナ　… きっと，やきもちからね”

6）...и спорит она с Миронихой больше от обиды, почти ревности... (Пос.)

“…だから，彼女がミローニハ婆さんと言い争いをするのは主にくやしさから，ほとんど嫉妬からである…”

5）の前置詞 из の例では，“やきもちから妻を散々殴った”ということが示され，コントロールされる動作が表されており，6）の前置詞 от の例でも，“嫉妬から言い争いをする”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。

次に，名詞 жалость“憐れみ，悲しみ”について見てみると，前置詞 из の例が 1 例，前置詞 от の例が 2 例あった。

7）Подавали, правда, но так — из жалости, что человек — слепой, и ему надо как-то кормиться. (Шук.)

“確かに金を恵んでくれたけれど，それは目が見えない彼にしても何とか食べていかなければならないだろうという憐れみからだった”

8）Миша потрясен был всем происшедшим и в первые минуты плакал от жалости и испуга. (Док.)

“ミーシャは出来事すべてにショックを受け，最初のうちは憐れみと驚きのせいで泣いていた”

9）Нет душе покоя от жалости и муки. (Док.)

“悲しみと苦しみで心に安らぎはない”

7）の前置詞 из の例では，“憐れみから金を恵んだ”ということが示され，コントロールされる動作が表されており，8）と 9）の前置詞 от の例ではそれぞれ，“憐れみのせいで泣いていた”，“悲しみで心に安らぎはない”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。なお，7）の例は，不定人称文の例であり，9）の例は，存在の否定生格構文が使われている無人称文の例である。

名詞 любопытство“好奇心”について見てみると，前置詞 из の例が 1 例，前置詞 от の例が 6 例あった。

10）Все окна в них были открыты, и всюду слышалась в окнах радиомузыка. Из любопытства Маргарита заглянула в одно из них. (Мас.)

“それら〔の建物〕のすべての窓は開いていて，いたるところで窓からラジオの音楽が聞こえていた。好奇心からマルガリータはそれらの窓のひとつをのぞき込んだ”

11）Валерия (*Зилову*). Что там? Что?

Зилов. Бомба, я думаю.

Валерия. Покажи, я умираю от любопытства. (Вам.)

“ワレーリヤ　（ズィーロフに）そこに何があるの？何が？

ズィーロフ　爆弾だと思うけど。

ワレーリヤ　見せて，私は見たくて〔好奇心で〕死にそうだ”

12）— А можно, чтобы он снял очки на секунду? — спросила Маргарита, прижимаясь к Воланду и вздрагивая, но уже от любопытства. (Мас.)

“「では，ちょっとだけ彼に眼鏡を外してもらってよいですか？」マルガリータは，ヴォランドに寄り添い，身震いしながら，もう好奇心から尋ねた”

13）Мадам Петракова, изнывая от любопытства, и свое ухо подставила к пухлым масленым губам Бобы. (Мас.)

“ペトラコーワ夫人は好奇心に苛まれながら，自分の耳をボーバの分厚い脂ぎった唇に近づけた”

10）の前置詞 из の例では，“好奇心からのぞき込んだ”ということが示され，コントロールされる動作が表されており，11）の前置詞 от の例では，“見たくて〔好奇心で〕死にそうだ”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。作品の資料では，11）の例のような，前置詞 от の例でコントロールされない動作が表されている例がもう 1 例あった。12）の前置詞 от の例では，“好奇心から尋ねた”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。13）の前置詞 от の例では，原因を表す語結合 от любопытства“好奇心に”は，コントロールされない動作を表す副動詞 изнывая“苛まれながら”に直接に掛かっているが，それが入っている文の動詞は подставила“近づけた”である。ペトラコーワ夫人は好奇心からボーバの話を聴くために自分の耳をボーバの唇に近づけたのであり，原因を表す語結合 от любопытства“好奇心に”は，コントロールされる動作を表す動詞 подставила“近づけた”に意味的により関係している。本稿ではこのような例をコントロールされる動作が表された例と見なすことにする。作品の資料では，13）のような例が全部で 3 例あった。

次に，名詞 страх“恐怖”について見てみると，前置詞 из の例が 4 例，前置詞 от の例が 18 例使われていた。まず，前置詞 из が使われている例を見てみる。

14）...Варенуха разрыдался и зашептал дрожащим голосом и озираясь, что он врет исключительно из страха, опасаясь мести воландовской шайки... (Мас.)

“…ヴァレヌーハはわっと泣きだし，ヴォランド一味の復讐を警戒し，彼はただ恐怖から嘘をついているのだと，震える声で辺りを見まわしながらささやき始めた…”

15）Из одного страха перед тем, какое унизительное, уничтожающее наказание нелюбовь, я бессознательно остереглась бы понять, что не люблю тебя. (Док.)

“愛してないことが，なんと屈辱的で，破壊的な罰であるかという恐怖だけから，私はあなたを愛していないことを悟ることを無意識のうちに避けることでしょう”

14）の例では，“恐怖から嘘をついている”ということが示され，コントロールされる動作が表されており，15）の例では，“恐怖だけから無意識のうちに避ける”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。前置詞 из が使われている他の 2 例では，コントロールされる動作が表されていた。

次に，前置詞 от が使われている例について見てみる。

16）От страху этот человек трясся и приседал. (Мас.)

“恐怖のせいでこの人は震え，へたへたと座りこんだ”

17）И лишь после этого замер от страха. (Дов.)

“ただその後は恐怖のあまり動けなくなった”

18）Голове его было почему-то неудобно и слишком тепло в шляпе; он снял ее и, подпрыгнув от страха, тихо вскрикнул. (Мас.)

“彼の頭はなぜか心地悪く，帽子の中はあまりに温かかったので，彼はそれを脱ぐと，恐怖に跳び上がり，低く悲鳴をあげた”

19）Люся закричала на Игреньку, но закричала не столько от злости, сколько от страха и от страха же стала пинать его во впалый бок... (Пос.)

“リューシャはイグレーニカを怒鳴りつけたが，怒鳴りつけたのは怒りのせいと言うよりは恐怖のせいであった。そして正に恐怖からその痩せこけた脇腹を蹴り始めた…”

16）から 18）の例ではそれぞれ，“恐怖のせいで震え，へたへたと座りこんだ”，“恐怖のあまり動けなくなった”，“恐怖に跳び上がり，悲鳴をあげた”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。一方，19）の例では，馬のイグレーニカが倒れてしまったので，“恐怖のせいで怒鳴りつけた”，“恐怖から馬の痩せこけた脇腹を蹴り始めた”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。作品の資料では，名詞 страх が前置詞 от を伴った場合にコントロールされる動作が表されている例は，19）の例の 2 例だけであった。

以上のことをまとめると，まず，名詞 вежливость“礼儀正しさ，丁重さ”，любовь“愛”，жалость“憐れみ，悲しみ”では，前置詞 из の場合にコントロールされる動作が，前置詞 от の場合にコントロールされない動作が表されていた。また，名詞 страх“恐怖”では，前置詞 из の場合，4 例中 1 例を除いてコントロールされる動作が表されており，前置詞 от の場合，18 例中 2 例を除いてコントロールされない動作が表されていた。名詞 ревность“やきもち，嫉妬”では，前置詞 из の例が 1 例，前置詞 от の例が 1 例ずつしかなかったが，ともにコントロールされる動作が表されていた。名詞 любопытство“好奇心”では，前置詞 из の場合，コントロールされる動作が表されていたが，前置詞 от の場合，コントロールされない動作ではなく，コントロールされる動作が表されている例が 6 例中 4 例と多かった[5)]。全体を総合して見

れば，前置詞 из の場合にコントロールされる動作が表され，前置詞 от の場合にコントロールされない動作が表される傾向が確認できる。

§9. コントロールされる動作が表されている例とコントロールされない動作が表されている例に見られる文法的，意味的特徴

これまでは，原因を表す前置詞別にコントロールされる動作が表されている例とコントロールされない動作が表されている例の使われ方を見てきたが，この節では，前置詞別ではなく，作品の資料のすべての例を分析の対象にして，コントロールされる動作が表されている例とコントロールされない動作が表されている例に見られる文法的特徴と意味的特徴について検討する。表 4 から，作品の資料全体では，コントロールされる動作が表されている例が 132 例，コントロールされない動作が表されている例が 734 例であり，コントロールされない動作が表されている例が非常に多いことが分かる。

Ⅰ．コントロールされる動作が表されている例

1）И даже, может быть, поняли, что дядя-солдат дарит букетики от беды? (Рак.)

“そして，もしかしたら，兵隊さんが悲しみから花束を贈っていることを〔2 人の少女は〕理解さえしたのだろうか？”

2）/ там еще познакомился с одним... с одним... И благодаря им же/ я попал на... последний концерт/ (Раз.)

“そこでさらに一人の人と知り合いになった…一人の人と…そして彼らのおかげで私は行くことが出来た… 最後のコンサートに”

3）Из-за этих вечерних ванночек, а также стесняясь дурного запаха от своей спины, Сибгатов добровольно оставался лежать в вестибюле... (Рак.)

“毎晩お湯を使うせいで，そしてまた自分の背中が発する悪臭に気がねして，シブガートフは自発的に入口の間で寝ていた…”

4）На открытых местах, где само пространство от полноты души как бы снимало шапку, путники разгибали спины... (Док.)

“空間そのものが感きわまってあたかも帽子を脱いだような開けた場所では旅人たちは背を伸ばした…”

5）Просто, наверно, на него, по его молодости и совестливости, навалили столько дел в совхозе, что он позабыл и улыбаться, и говорить приветливо... (Шук.)

“おそらく，彼が若くて，良心的なので，ソフホーズでたくさんの仕事を彼が押し付けられているために，彼は微笑むことも，愛想良く話すことも忘れてしまったにすぎない…”

1）と 2）の例ではそれぞれ，“兵隊さんが悲しみから花束を贈る”，“彼らのおかげで私は行くことが出来た”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。3）の例で

は，“毎晩お湯を使うせいで，シブガートフは自発的に入り口の間で寝ていた”ということが示され，コントロールされる状態が表されている。「Ⅰ．コントロールされる動作が表されている例」のグループでは，1）と 2）の例のように主語が活動体を指示し，動詞が動作を表している例がグループの約 3 分の 2 を占めていた。3）の例のような状態が表されている例は少なかった。また，主語が不活動体を指示している例は 4）の 1 例だけであった。4）の例では，“空間そのものが感きわまってあたかも帽子を脱いだようだ”ということが示され，пространство “空間”が擬人化された比喩的表現になっている。このグループでは，第 5 節の 5）の例，第 8 節の 7）の例を含めて，5）の例のような不定人称文の例が 7 例使われていた。5）の例では，“彼が若くて，良心的なので人々がたくさんの仕事を押しつけた”ということが示され，コントロールされる動作が表されている。

Ⅱ．コントロールされない動作が表されている例

１）動詞が使われている人称文

6）Думала, умру со страху. (Док.)

“怖くて死ぬかと思った”

7）Вдруг по неосторожности Сашенька широко и сладко зевнул... (Док.)

“突然油断してサーシェニカは大きく心地よくあくびをした…”

8）...я сижу здесь из-за того же, что и вы, именно из-за Понтия Пилата. (Мас.)

“…私がここにいるのもあなたと同じようにまさにポンティオ・ピラトのせいなのです”

9）От его взгляда из рук женщин падали тарелки. (Дов.)

“彼ににらまれると女たちの手から皿が落ちた”

10）Иван представлял себе ясно уже и две комнаты в подвале особнячка, в которых были всегда сумерки из-за сирени и забора. (Мас.)

“イワンはライラックと塀のせいでいつも薄暗い，屋敷の地下の 2 部屋をもうはっきり思い浮かべることができた”

6）と 7）の例ではそれぞれ，“怖くて死ぬ”，“油断してあくびをした”ということが示され，コントロールされない動作が表されている。8）では，“私がここにいるのもポンティオ・ピラトのせいです”ということが示され，コントロールされない状態が表されている。このような状態が表されている例は「1）動詞が使われている人称文」のグループの 3 分の 1 近くを占めており，上の「Ⅰ．コントロールされる動作が表されている例」のグループでは状態の例が少なかったこととは大きな違いがある。9）と 10）の例ではそれぞれ，“彼ににらまれると皿が落ちた”，“ライラックと塀のせいで薄暗かった［薄暗闇があった］”ということが示され，9）の例ではコントロールされない動作が，10）の例ではコントロールされない状態が表されている。また，それぞれ不活動体名詞の тарелки “皿”，сумерки “薄暗闇”が主語になっている。このような不活動体名詞が主語になっている例はこのグループの 3 分の 1 以上を占めていた。

２）無人称文

11）У Лары дух захватило от обиды. (Док.)

“ラーラはくやしさで息が止まりそうだった”

12）...гостя буквально шатало от волнения, что было видно даже издали. (Мас.)

“客は興奮のあまり文字通りよろよろしており，それは遠くからでも見えた”

13）Сюда падало предзакатное солнце, ещё было светло от него. (Рак.)

“こちらには夕日が差し込み，その〔夕日の〕せいでまだ明るかった”

14）От стреми́тельного бе́га нам стано́вится да́же жа́рко. (Пра.)

“ひたすら走っているせいで私たちは暑くさえなっていく”

15）Нет душе покоя от жалости и муки. (Док.)

“悲しみと苦しみで心に安らぎはない”

作品の資料では，検討中の６つの原因を表す前置詞が使われている無人称文では，すべてコントロールされない動作が表されていた。11）の例では，無人称動詞が入った成句 дух захватило“息が止まりそうだった”が使われており，状態が表されている。12）の例は，動詞 шатать“よろよろさせる”が無人称動詞として使われている無人称文で，動作が表されている。作品の資料には，無人称動詞が使われている無人称文の例が 44 例あったが，それらのほとんどの例で状態が表されており，12）の例のように動作が表されている例は少なかった。13）と 14）の例はそれぞれ，述語副詞 светло“明るい”，жарко“暑い”が使われている例である。作品の資料では述語副詞の例も 44 例あり，13）の例のように状態が表されている例が多かったが，14）の例のように動詞 становится“…になっていく”，стало“…になった”などが付くことにより状態の変化が表されている例もかなりあった。15）の例は，存在の否定生格構文が使われている無人称文である。作品の資料では，存在の否定生格構文が使われている無人称文は 12 例あったが，すべて状態が表されていた。

３）形容詞，形動詞

16）Над городом стояли клубы розовой от солнца пыли. (Дов.)

“町の上空では日の光のせいでバラ色になった埃がもうもうと立ちのぼっていた”

17）Он, видимо, и сам был виноват в своих неудачах из-за трудного характера. (Рак.)

“彼自身が，おそらく，難しい性格のせいで自分の失敗に責任があったのだろう”

18）Я видел ее вспухшие от дыму и плача глаза... (Мас.)

“私は煙と泣いたせいで腫れあがった彼女の目を見た…”

19）Гонка за какими-то гражданками, визжащими от ужаса! (Мас.)

“恐怖のあまり悲鳴をあげている，ある女性たちを追いかけ回していただと！”

20）В самом деле — тогда на лице его были как зубилом прорублены глубокие, серые, частые морщины от постоянного напряжения. (Рак.)

“実際に，そのとき彼の顔には，絶え間ない緊張のせいで深く灰色で密な皺が，のみによってのように刻み込まれていた”

作品の資料では，検討中の6つの原因を表す前置詞が形容詞や形動詞に関係する例では，すべてコントロールされない動作が表されていた。形容詞の例は42例，形動詞の例は52例あった。

16）の例は，形容詞 розовой“バラ色の”が名詞 пыли“埃”を修飾している定語的用法の例で，形容詞 розовой“バラ色の”は状態を表している。17）の例は，形容詞 виноватый“責任がある”が был виноват“責任があった”のように述語的に使われている例で，状態が表されている。作品の資料では，原因を表す前置詞が形容詞に関係している例ではすべて状態が表されていた。

18）の例は，形動詞 вспухшие“腫れあがった”が名詞 глаза“目”を修飾している定語的用法の例で，形動詞 вспухшие“腫れあがった”は状態を表している。19）の例も，形動詞 визжащими“悲鳴をあげている”が名詞 гражданками“女性の市民”を修飾している定語的用法の例であるが，形動詞 визжащими“悲鳴をあげている”は動作を表している。作品の資料では，19）の例のような定語的用法の形動詞が動作を表している例はわずかであった。20）の例では，形動詞 прорубленный“刻み込まれた”が были прорублены“刻み込まれていた”のように述語的に使われており，状態が表されている。作品の資料では，20）の例のような形動詞が述語的に使われている例は少なかった。

作品の資料を検討してきたことをまとめると，コントロールされる動作が表されている例とコントロールされない動作が表されている例に見られる，以下のような文法的，意味的特徴があると言える。

特徴1. コントロールされる動作が表されている場合，主語が活動体を指示し，動詞が動作を表していることが多い。

特徴2. コントロールされない動作が表されている場合，コントロールされる動作が表されている場合と比べて，状態が表されていることが多い。

特徴3. 主語が不活動体を指示している場合は，コントロールされない動作が表される。（ただし，不活動体の対象が擬人化されたような例を除く）

特徴4. 原因を表す前置詞が無人称文で使われている場合は，コントロールされない動作が表される。

特徴5. 原因を表す前置詞が形容詞，形動詞に関係している場合は，コントロールされない動作が表される。

ところで，第2節から第7節で，それぞれの前置詞が使われた場合に，コントロールされる動作が表されているか，コントロールされない動作が表されているかを検討したが，その結果に上に挙げた5つの特徴が影響を与えていることが分かる。たとえば，前置詞 из の場合は特

徴 1 が影響を与えている。そのような例は，第 2 節の 1）から 5）の例，第 8 節の 1)，5)，10)，14）の例である。このことが前置詞 из の場合にコントロールされる動作が表されている例が多い要因の一つであると考えられる。前置詞 от の場合には，特徴 1, 4, 5 が特に影響を与えている。前置詞 от の場合，第 5 節の 10）から 12）の例のようにコントロールされる動作が表されていて，主語が活動体を指示し，動詞が動作を表している例の割合は，前置詞 от の例全体の 4.9%（前置詞 от 以外の前置詞の場合の割合は 20.8%）で低かった。また，前置詞 от の場合，第 5 節の 8)，第 8 節の 9)，第 9 節の 11）から 15）の例のような無人称文の例の割合が高かった。さらに，第 5 節の 4)，9）の例，第 9 節の 16）の例のような原因を表す前置詞が形容詞に関係している例や，第 9 節の 18）から 20）の例のような原因を表す前置詞が形動詞に関係している例の割合も高かった。これらのことが，前置詞 от の場合にコントロールされない動作が表されている例が多い要因の一部を成すと考えられる。また，特徴 3 は，第 2 節から第 7 節で挙げた，前置詞 из の 8）と 9）の例，前置詞 с の 3）の例，前置詞 по の 4）の例，前置詞 от の 3）と 4）の例，前置詞 из-за の 5）の例，前置詞 благодаря の 2）の例に反映されている。

§10. 終わりに

本稿では，ロシア語の 6 つの原因を表す前置詞をコントロールされる動作の観点から分析した。表 4 に見られるように，前置詞 из の場合，コントロールされる動作が表されている例の割合が高く，その他の前置詞の場合，とくに前置詞 от の場合，コントロールされない動作が表されている例の割合が高かった。また，前置詞の使用に関して本稿の結果と従来の説との違いも見られた。たとえば，前置詞 из の場合，従来の説ではコントロールされる動作が表されるとされていたが，作品の資料ではコントロールされない動作が表されている例が見られた。

6 つの原因を表す前置詞の例すべてを集めて分析すると，第 9 節で挙げたような 5 つの文法的，意味的特徴が見つかった。これらの特徴は，それぞれの原因を表す前置詞が使われた場合に，コントロールされる動作が表されるか，コントロールされない動作が表されるかに影響を与えている。たとえば，前置詞 из の場合にコントロールされる動作が表されている例が多いことには特徴 1 が，前置詞 от の場合にコントロールされない動作が表されている例が多いことには特徴 1, 4, 5 が影響を与えている。また，特徴 3 が反映されている例は，6 つの原因を表す前置詞すべてで見られた。

青木（2017）と本稿でロシア語の原因を表す前置詞の分析を行ったのは，従来のロシア語の原因を表す前置詞の研究が，主として，前置詞ごとに，その前置詞に特有な特徴について行われてきたのに対し，原因を表す前置詞を特徴づけるのに関与的な意味特徴を使って，6 つの前置詞すべてを分析することにより，これらの前置詞を意味特徴の観点から組織的に特徴づけるためであった。結局，1. 前置詞が支配する語の意味，2. 外的原因と内的原因，3. 望ましさ，4. コントロールされる動作という 4 つの意味特徴の観点からロシア語の 6 つの原因を表す前

置詞の分析を行い[6]，青木（2017）の表1，表2，表3と本稿の表4が得られた。青木（2017）と本稿で述べたこととこれらの4つの表に基づき，ロシア語の6つの原因を表す前置詞が4つの意味特徴の観点から組織的に特徴づけられることになる。たとえば，前置詞 благодаря は，本稿で扱っている研究者の著作や論文において，コントロールされる動作の点からの分析はされてなかった。しかしながら，青木（2017）と本稿の分析結果から，前置詞 благодаря は，すべての語のグループと使われ，内的原因を表すことが少なく，望ましい原因を表すことが多く，コントロールされる動作を表すことが少ないというように4つの意味特徴の観点から特徴づけられることになった[7]。

注

1）「作品の資料」という用語については，青木（2017）の181ページを参照のこと。青木（2017）で定義したことや注で述べたことは，本稿で繰り返えさないことにする。たとえば，Иорданская и Мельчук（1996）が使っている記号 X，Y，P，P(X) に関しては青木（2017）の注4）を参照のこと。

2）Агафонова（2000）は，前置詞 с が原因を表す例を，前置詞 с に続く要素 Y が心理的状態である場合，肉体的状態である場合，外的状態である場合の３つの場合に分けて分析している。Y が外的状態である例は с вашего согласия“あなたの承諾を得て”のように承認の意味を表す例であり，本稿の分析対象外としている例である。青木（2017）の注1）を参照のこと。

3）Всеволодова и Ященко（2015）は，ロシア語の原因を表す前置詞を，主体の意識的動作の部と主体の意図的でない動作の部に分けて分析しているが，主体の意識的動作の部には以下のような前置詞 благодаря の例がたくさん挙がっているが，主体の意図的でない動作の部には前置詞 благодаря の例は挙がっていなかった。

Благодаря этой пшенице *мы обеспечили себе хорошие урожаи;*（60ページ）

“<u>この小麦のおかげで</u>，我々はよい収穫を確保した”

4）表4では，以下の例のような，原因を表す前置詞の前に否定詞が置かれて，前置詞と名詞の語結合が動作を引き起こす原因になっていないような例を除いている。

Донцова неопределённо кивнула. <u>Не</u> <u>от</u> <u>скромности</u> так, <u>не</u> <u>от</u> <u>смущения</u>, а потому что ничего он не понимал, что говорил. (Рак.)

“ドンツォワはあいまいにうなずいた。<u>謙虚さからでも</u>，<u>当惑からでもなく</u>，彼が自分で何を言っているか何も分かっていなかったからだった”

5）名詞 любопытство“好奇心”の場合にコントロールされる動作の例が多い理由は，名詞 любопытство の意味によるのかも知れない。人間は好奇心があると“のぞき込む”，“尋ねる”，“耳を近づける”，“鍵穴に目をくっつける”などのコントロールされる動作を行う傾向があると考えられる。

6）青木（2017）で，ロシア語の原因を表す６つの前置詞を，１．前置詞が支配する語の意味，２．外的原因と内的原因，３．望ましさ，という３つの意味特徴の観点から分析した。この３つの意味特徴と本稿で扱ったコントロールされる動作という意味特徴の関係について見てみると，望ましさの意味特徴とコントロールされる動作という意味特徴の間に関係がある可能性があることが分かった。望ましい（結果を引き起こす）原因が表されている場合と望ましくない（結果を引き起こす）原因が表されている場合に，コントロールされる動作が表されているか(○で示す)，コントロールされない動作が表されているか（×で示す），どちらか判断できない動作が表されているか（△で示す）を，前置詞別に示すと表５のようになる。また，前置詞 от の例が全体の例の約７割を占めているので，前置詞 от を除いた結果を最後の行に示している。

表５　望ましさとコントロールされる動作の関係

	望ましい原因			望ましくない原因		
前置詞	○	×	△	○	×	△
из	4	0	0	8	2	0
с	0	1	0	11	33	6
по	1	0	0	4	13	6
от	2	38	0	11	360	4
из-за	0	0	0	32	84	3
благодаря	7	6	0	0	1	1
合計	14（24%）	45（76%）	0（0%）	66（11%）	493（85%）	20（3%）
от 以外の合計	12（63%）	7（37%）	0（0%）	55（27%）	133（65%）	16（8%）

表５を見てみると，望ましい原因の場合，コントロールされる動作が表されている例の割合は24%（前置詞 от を除いた場合63%）で，望ましくない原因の場合，コントロールされる動作が表されている例の割合は11%（前置詞 от を除いた場合27%）となっており，望ましい原因の場合の方が，望ましくない原因の場合より，コントロールされる動作が表されている例の割合が高くなっていることが分かる。しかしながら，例の数が少ないので(特に，望ましい原因の例)，この資料の分析から意味のある結果を導き出すことは困難であり，より多くの例を集めて検討する必要がある。

7）青木（2017）と本稿で，ロシア語の６つの原因を表す前置詞を，４つの重要な意味特徴の観点から分析できたので，ロシア語の原因を表す前置詞の研究は本稿で終わりとする。

参考文献

阿部軍治　1975　ロシア語における原因を表わす前置詞『教養論叢　慶応義塾大学法学部法学研究会』40. 53–65.

Агафонова К. 2000 О конструкции «предлог *с* + генитив». *Исследования по семантике предлогов: Сборник статей.* Москва. Русские словари. 313–337.

Астафьева Н.И. 1974 *Предлоги в русском языке и особенности их употребления.* Минск. Вышэйшая школа.

Gitin V. 1987 The preposition of cause *iz:* its semantic and selectional properties. *New studies in Russian language and literature*. Columbus, Ohio. Slavica Publishers. 117–131.

Грамматика русского языка. Том II Синтаксис. Часть первая. 1960 Москва. Изд. АН СССР.

Иорданская Л.Н., Мельчук И.А. 1996 К семантике русских причинных предлогов (ИЗ-ЗА любви ~ ОТ любви ~ ИЗ любви ~ *С любви ~ По любви). *Московский лингвистический журнал.* Т.2. Москва. 162–211.

Метс Н.А. 1985 *Практическая грамматика русского языка для зарубежных преподавателей-русистов.* Москва. Русский язык.

Попова Л.Н. 1958 О значении предлога в современном русском языке (Предлог *от* + родительный падеж в значении причины). *Ученые записки ЛГУ* No. 235 Серия филологических наук, Вып.38. 190–208.

Розенталь Д.Э. 2008 *Справочник по русскому языку: практическая стилистика.* 2-е изд. Москва. ОНИКС Мир и Образование.

Schimizzi J.A. 1971 *Synonymy among Russian primary prepositions.* Nashville, Tennessee. Vanderbilt University.

城田俊，八島雅彦　2014『現代ロシア語文法　中・上級編』［改訂新版］　東京　東洋書店

Сухотин В.П. 1960 *Синтаксическая синонимика в современном русском литературном языке. Глагольные словосочетания.* Москва. Изд. АН СССР.

Всеволодова М.В., Ященко Т.А. 2015 *Причинно-следственные отношения в современном русском языке.* Изд. стереотип. Москва. ЛИБРОКОМ.

Золотова Г.А. 2001 *Синтаксический словарь: Репертуар элементарных единиц русского синтаксиса.* Изд.2-е. Москва. УРСС.

Prepositions of Cause in Russian II

(An Analysis from the Perspective of Controlled Action)

Masahiro AOKI

Abstract

This study analyzes six prepositions of cause in Russian from the perspective of controlled action: из (iz), с (s), по (po), от (ot), из-за (iz-za), and благодаря (blagodarja). Using data culled from various Russian works, I discovered that из (iz) often appears where a controlled action is expressed. Many examples with other prepositions, particularly от (ot), express uncontrolled action. There is a clear difference between the results of my analysis and conventional theory. For example, traditional theory holds that из (iz) is only used in expressions of controlled action; however, examples expressing uncontrolled action have also been found with this preposition in the data.

As I collected and analyzed numerous examples of the usage of the six prepositions, I found five grammatical and semantic characteristics that influence whether controlled or uncontrolled actions are expressed. The data show that these characteristics influence the prevalence of expressions of controlled action with из (iz) and uncontrolled action with от (ot). Furthermore, examples of uncontrolled actions being expressed when the subject was an inanimate object were seen with all six prepositions.

Keywords: cause, preposition, Russian, semantic property, controlled action